

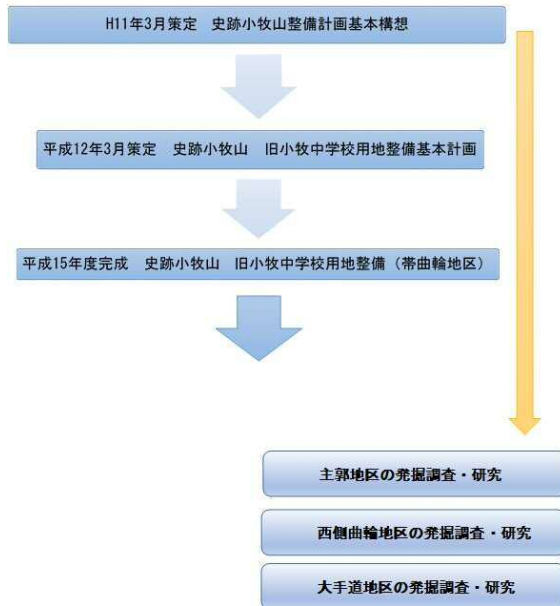
(仮称)史跡センター整備基本構想(概要版)

小 牧 市

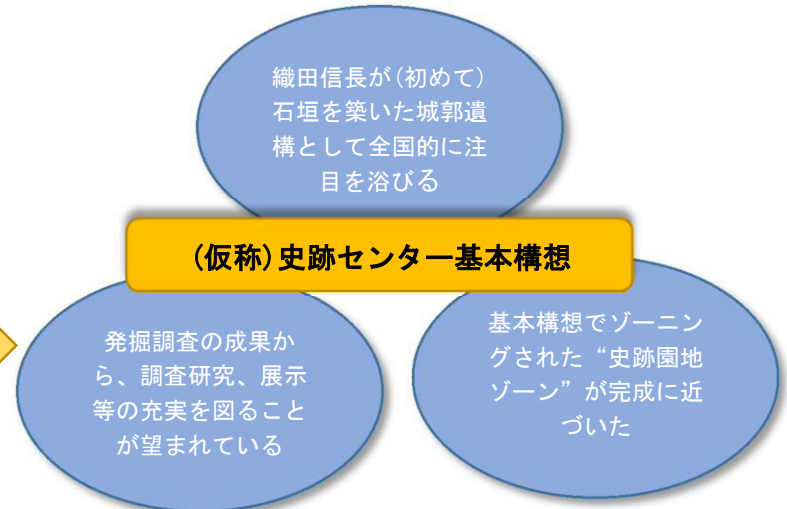
■史跡センターの経緯・目的

昭和2年に国の史跡指定された史跡小牧山は、現在、平成10年度に策定された「史跡小牧山整備計画基本構想」にのっとり着々と調査や整備が進められている。調査は、東側帯曲輪地区の調査が完了し、現在城郭の中心地である主郭地区の調査が行われているところである。その調査の中で、織田信長が巨石を使用して築いたと考えられる石垣が発見され、大きな注目が集まっている。土の城とされていた小牧山城が近世城郭の起源とされていた安土城築城以前に大規模な石垣を築いて城を作ったのが確認されたのである。また史跡整備においては、帯曲輪地区の整備が完了し来年度から市役所旧本庁舎跡地の整備が始まろうとしている。そこで、今後も進められる長期に渡る調査や整備の中心施設として、また、小牧山のビジターセンター的機能を持つ施設が必要とされてきたため、(仮称)史跡センター基本構想が策定されることとなった。

■史跡センター建設の提案



史跡小牧山整備計画基本構想	戦国時代の城郭遺構の調査・研究と、史跡としての価値を高める史跡整備を実施するための基本的方針を定めた構想
(仮称) 史跡センター建設の提案	
背景	歴史資産の保存・展示場所が必要となっている 歴史跡や民俗資料保存施設など既存施設の増強化、耐震対策 史跡小牧山の理解を促し、情報を蓄積、発信するセンターが必要
位置づけ	メインテーマは、“史跡小牧山” 歴史民俗資料の展示・収蔵・啓発施設
方針	小牧市の総合的歴史文化拠点として、また、情報発信機能を備えた施設 小牧山の公園利用センター機能を持つ施設
位置	史跡内で利便性が高く、遺構及び史跡としての歴史的環境上問題ない位置、旧小牧中学校跡地に整備する
予定地の現状	大きく削平され、現状は崖面となっているが、曲輪の一部が残存する。土砂崩れしたため、砂防擁壁が設けられている 古城絵図にも明確な記載がなく、昭和2年地形測量図しか、資料がない 創垂館は、小牧山になじみの深い尾張徳川家、県立公園ゆかりの歴史的資産として、センター周辺に移築する 歴史館は、当面、展望機能を保持する 屋外展示を充実させ、ダイナミックな体験型の整備を行うとともに、小牧山及び周辺自然についての博物館機能の充実を図る
その他	



■事業スケジュール



史跡センターの基本的な考え方

本施設の基本的な理念は、以下のとおりとする。

「市民を始めできるだけ多くの来訪者に、これまで実施してきた調査・研究の成果を紹介し、小牧山の史跡としての価値を理解してもらい、また、これまで、これからの情報を共有することで多くの人々との交流を深めていく拠点とする」

基本理念

小牧山の史跡としての価値を高め、より理解を深めるための情報を発信する拠点
市のシンボルである小牧山を中心に育まれてきた歴史や文化、残された貴重な自然をととした交流拠点

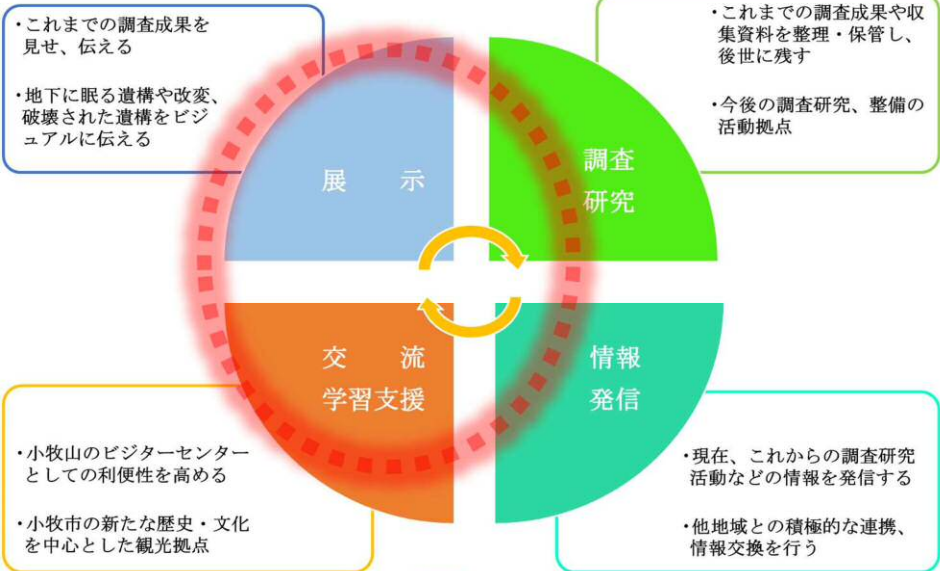
テーマ

歴史の表舞台に登場した歴史資産
安土・桃山時代の城郭、まちづくり（城下町）
（織田信長が全国で初めてつくった計画的城下町）
（小牧・長久手の合戦の徳川家康の陣城・砦群）

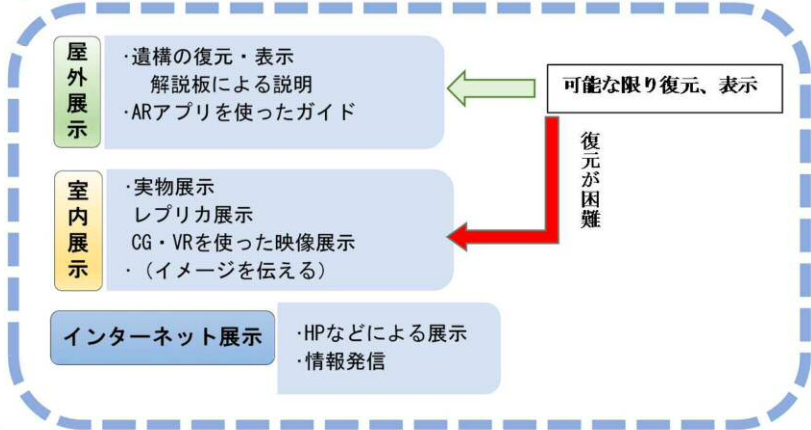
史跡小牧山
・城の縄張りが残る（曲輪、土塁、堀など）
・城郭石垣の原型、野面積み石垣
・織豊系城郭、近世城郭の石垣の起源となる

緑豊かな小牧山の貴重な自然
（周辺地域に見られない貴重な照葉樹林）

果たすべき役割と備えるべき機能

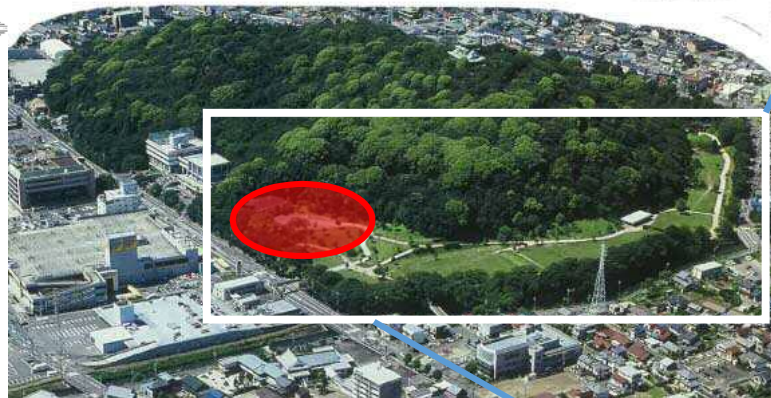
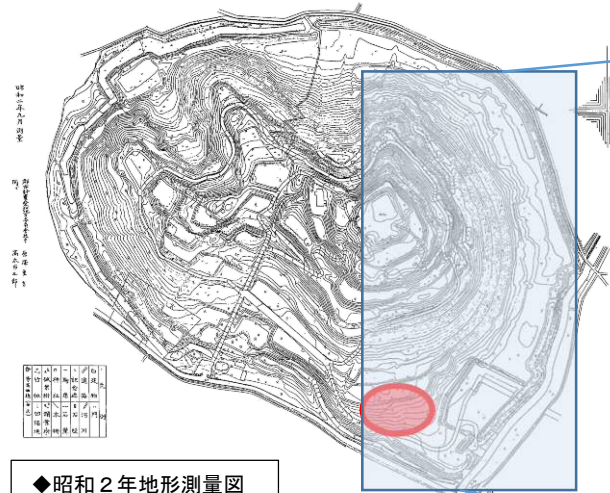


ガイダンス施設としての充実すべき機能と割合



学校との連携	・学校カリキュラムでの活用（体験学習、出前授業など）
地域活動支援	・地域文化活動の支援、場の提供 ・生涯学習の支援
担い手育成	・文化財保護活動の啓蒙や担い手の育成 ・研究活動のサポート
類似城郭研究施設とのネットワークの形成	・他地域との積極的な連携、情報交換 ・研究活動のサポート
観光連携	・ボランティアガイドの活動ベース、学習・研修の場

■史跡センターの建設予定地



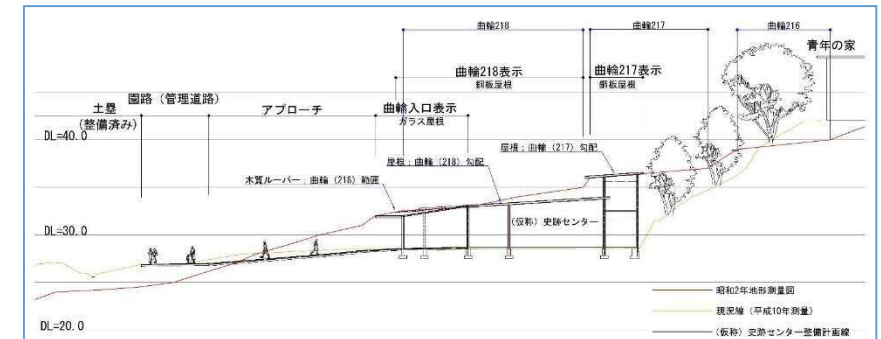
◆旧小牧中学校用地史跡整備図



■史跡センター全体の空間構成



■計画断面図



- ・背後の山と調和を図った建物の仕上げとし、屋根と軒で曲輪の範囲を表現する。
- ・屋根勾配で曲輪面の勾配を表現し、屋根で範囲を表現できない箇所は石縁石等で範囲を表現する

■諸室計画と規模

各諸室規模とその内容は下記の表となる。また、建築延床面積は約 1,200 m²となる。

部門	名称	階	規模設定	面積 (m ²)	部門面積 (m ²)	構成比率
展 示	戦国武将コーナー (小牧山城下町模型を含む)	1F	・多目的展示が可能なよう、出来るだけ広いスペースを確保する。	320	530	44%
	ガイダンスコーナー	1F	・壁面や可動式壁によるパネル展示とし、小学校2クラス(70人程度)が利用できる空間とする。また、資料を使ってレクチャーが必要な場合は隣接する体験学習室も活用する。	50		
	小牧山城石垣展示コーナー	1F	・発掘調査で判明した石垣のレプリカ展示(遺存部は同質石材を使用)を行う。規模は、延長を15~20m程度とする。	60		
	映像展示コーナー	1F	・規模は1クラス程度の利用を想定し、固定席は設けず可動式椅子の利用とする。40人規模を想定する。	55		
	企画展示コーナー	1F	・遺物等実物展示も考慮し、広めの空間とする。	45		
交 流 学習支援	体験学習室	1F	・規模は1クラス程度の利用を想定し、作業用テーブル・椅子を設置する。40人規模を想定する。	60	210	18%
	レクチャールーム	別棟	・小学校2クラス(70人程度)規模が利用可能な空間を確保する。また、雨天時や小牧山見学者の休憩所も兼ねる。	125		
	交流サロン	1F	・復元整備された土塁や曲輪などを見る空間で、小テーブルと椅子を設ける。20人規模を想定	25		
調 査・研 究	資料室	2F	・城郭関係の専門的資料の閲覧が可能な空間とする。規模はテーブル席で20人程度が利用可能な学習室と資料室を設ける。また、特別展示の開催や体験学習室を補充するスペースも確保する。	110	220	18%
	倉庫兼収蔵品展示室 ボランティア控室	1F	・遺物の収蔵庫として、また一部は展示する空間とする。また、施設がこれからの調査の拠点機能を持つ必要があることから、道具や、小牧山を案内するボランティアスタッフの控室としても利用する。	110		
管 理	エントランス・ホール等	1F	・想定される入口と同程度の規模とする。	70	240	20%
	事務室・受付(2~3名)	1F	・2~3名の職員が常駐することを想定する。	20		
	便所 1F	2F	・多目的便所、男子3人立、女子2穴程度の規模とする。	40		
	2F	1F	・多目的便所	6		
	通路、E V、機械室	1・2F		64		
	屋外便所	別棟	・多目的便所、男子3人立、女子2穴程度の規模とする。	40		
延床面積				1,200	—	100%

■施設内部のイメージ

◆施設のイメージ

◆ガイダンスコーナ



◆小牧山模型



◆石垣展示



◆映像コーナー



◆企画展示コーナー



◆体験学習コーナー



◆レクチャールーム



◆交流サロン

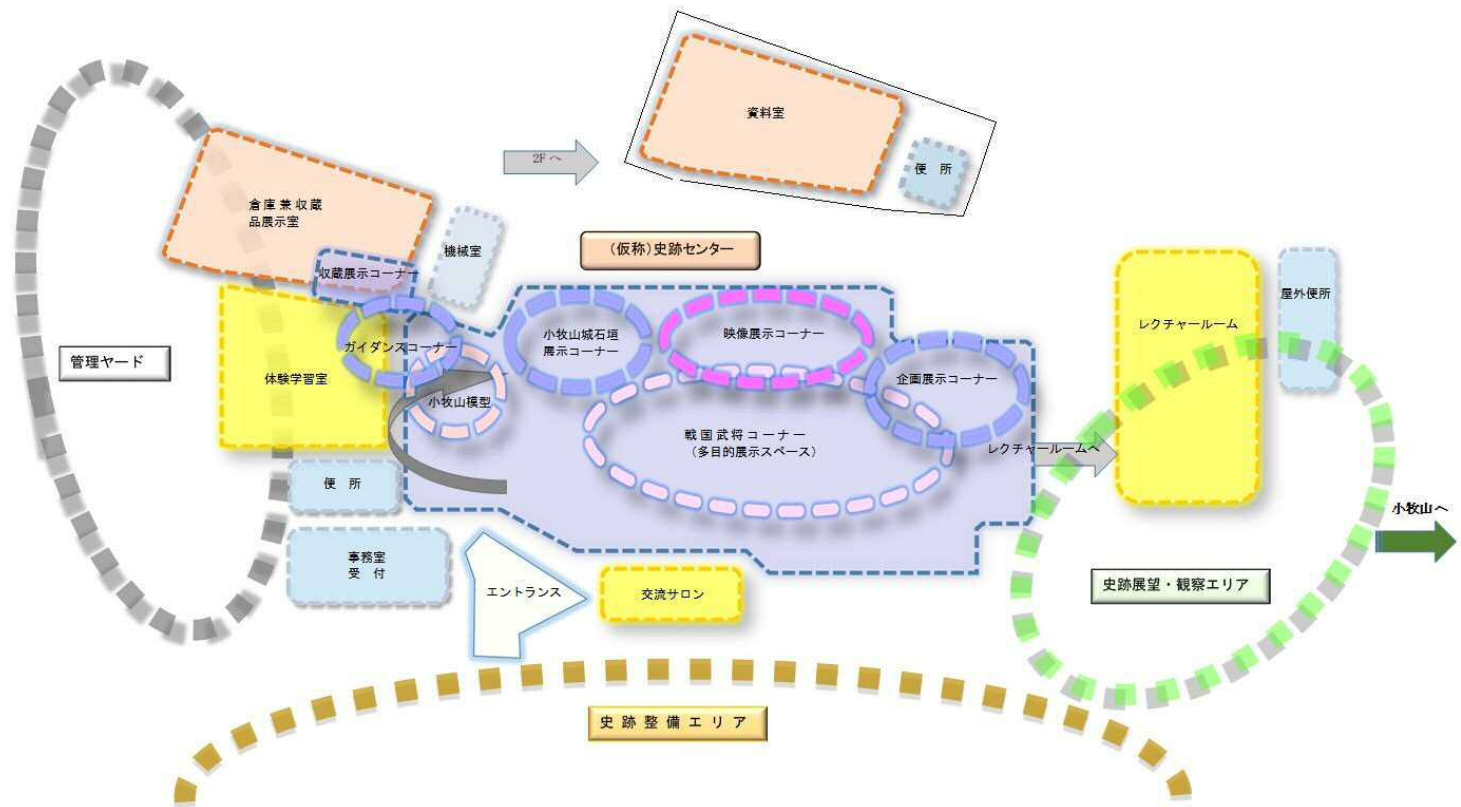


◆資料室



展示空間とイメージ

■配置計画



■展示空間のイメージ



● 子供たちに人気のガイダンス、体験学習のイメージイラスト



● 小牧山城の迫力ある石垣レプリカ展示のイメージイラスト